

令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 白岡市教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1 白岡市立篠津小学校の取組

○教科名 国語

○单元名 よりよい学校生活のために

○身に付けたい力 立場を明確にした話合いの仕方や、計画的な話合いの仕方

○取組の工夫

議題について考え、自分の意見をまとめる学習を進める上で以下の内容に留意した。

- ・取り組み方（一人で、グループで、教えてもらいながら）や思考ツールは自分の学びに合わせて決めてよいこととする。
- ・コラボノートを活用して、自分の意見をまとめる。
- ・意見をまとめる際には、付箋を動かしたり、線で繋げたりしてもよい。
- ・計画的な話合いの仕方を確認する際には、動画を見ても台本を活用してもよいこととする。

子供たちは、多くの場面で自分にあった取り組み方を選択することができた。そのため一人一人が課題意識を明確にもち、主体的に学習に取り組むことができた。



事例2 白岡市立白岡東小学校の取組

○教科名 音楽

○題材名 「音の重なりを感じ取ろう～アイネ クライネ ナハトムジーク第1楽章～」

○身に付けたい力 一人一人の技能を伸ばしながら、全体としての演奏を完成させる

○取組の工夫

一人一人の興味・関心を生かした課題を設定し主体的・協働的に楽器の学習活動を促す。

授業者が事前に各パートの演奏をタブレットに録音し、児童にエアドロップで送った。児童は自分のパートの録音を何度も聞きながら練習をすることができた。

このことにより、同じパートの児童と聞き合ってアドバイスをし合ったり、自分の出来栄を振り返って個別に練習したりするなど、協働的・個別的に学習を進めることができた。

その結果として、児童は自分のパートについてよく理解することができ、他の楽器のよさを見い出しながら曲全体を味わってよく聞いたり、音楽活動を楽しんだりしながら主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる音の重なり親しむことができた。



事例3 白岡市立白岡中学校の取組

○教科名 社会

○单元名 第3章 日本の諸地域

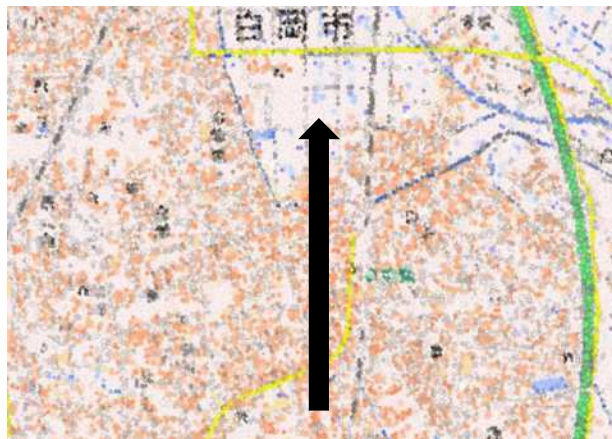
○身に付けたい力

自分が住んでいる地域の現状や再開発を理解し、今後どのような影響が想定できるか考察する力
生徒が自己調整しながら粘り強く取り組む力

○個別最適な学びへ向けた工夫

関東地方の学習の一環として、白岡市の再開発について調べる学習において、①自由進度学習の導入と②GIS や③Google サイトの活用を通して、学習の個性化と指導の個別化を図った。

関東①	関東②	関東③	関東地方で使ったGIS
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	RESAS 地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡宮代線	白岡中央総...	イチゴノオ...	地理院地図
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	RESAS Googleマップ 地
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	RESAS、地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS、Go
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図 RESAS
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	地理院地図、Googleマッ
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS、ポ
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS



①スプレッドシートに取り組む順番を入力させ、指導の個別化に生かした。



②白岡中央総合病院の移転について、地理院地図から分かることを考えた。他に2つテーマがあり、それぞれGISを活用した。

生徒が3つのテーマ(イチゴノオカプロジェクト、白岡宮代線の整備、白岡中央総合病院の移転)の中から、どのテーマから取り組むかを自分で決め、それぞれの課題に対してGISやポータルサイトを活用して、自走する姿が見られた。

交通網の整備から利便性の向上と渋滞を予測したり、新たな産業観光施設の建設から産業構造に与える影響や今ある産業観光施設の衰退を予測したり、医療施設の移転から便利になることと不便になることの二面性を考察したりすることができた。

③Google サイトで日本の諸地域ポータルサイトと題したHPを作成し、各地方の学習に必要な資料を掲載した。

令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びを目指した情報端末の活用」

宮代町教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

○教科名 国語（小学校5年）

○单元名 「やなせたかし

アンパンマンの勇気」

○身に付けたい力

- ・情報活用能力（整理・分析する力）
- ・文章を読んで理解したに基づいて、自分の考えをまとめる力

○個別最適な学びと協働的な学びに向けた工夫

①デジタル教科書の活用

- ・デジタル教科書内の「本文抜出機能」や「マーカー機能」を活用し、アプリ内のページに本文の抜き出しが容易となっている。何度もやり直しがきくうえに、各自が試行錯誤しながら情報を収集したり、整理・分析を行ったりしている。そのため、ただ板書を写すのではなく自分の思考を反映したオリジナルの板書を作成することが可能。
- ・「朗読機能」で、各自のペースで範読を聞くことができる（速度・画面・挿絵）。
- ・様々な思考ツールの活用。

②協働的な学び

- ・協働する相手や場所の選択、協働学習のタイミングや費やす時間を学習者自らが調整をすることができる。
- ・各自の考えがまとまったら、共有アプリに投稿し学習者全員が情報共有できる。
- ・投稿された情報や、他の学習者の画面等を他者参照することにより、意見や考えを深め、学習者自身の自信につなげることができる。
- ・大型提示装置を活用し、学習者の画面を共有し、意見や考えの共有を行う。
- ・全文印刷を活用し、学習者の意見集約の学びマップの作製。
- ・Google スプレッドシートを用いた振り返りシートの活用を行い、学習の足跡を残すことができる。また、振り返りを書く際にも学習者同士が話し合ったり、他者参照したりしながら記入を行うことができる。



事例2

○教科名 算数（小学校6年）

○単元名 分数のわり算

○身に付けたい力

数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、互いに自分の考えを表現し合う活動を積極的に取り入れ、計算の仕方を多面的に捉える。

○個別最適な学びへ向けた工夫

＜表現方法の選択＞

- ・自分にあったアウトプットの方法で表現。(情報端末、ノート、言葉、図など)

＜共有化＞

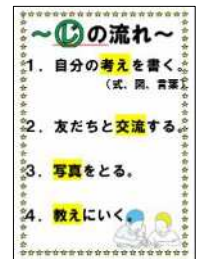
- 考えがまとまった児童から、お互いに考えの交流を行ったり、解決になかなか手のつかない児童へのアドバイスをしたりする時間を確保した。
- 授業支援システム上で児童の考えを1人1台端末に映し考えの共有を行った。

＜視覚化＞

- ・交流や発表の流れ、自力解決の流れが分かるものの掲示。

＜理解の促進＞

- ・デジタルドリルを活用した、適応問題への取り組み。
- ・毎時間のふり返りを Google スプレッドシートに打ち込むことで、自分の学習や変容をいつでも分かりやすく確認することができるようにした。

[illegible]

事例3

○教科名 技術・家庭科（技術分野）（中学校1年）

○単元名 「板材を組み立て、簡単 BOX を形にしよう」

○身に付けたい力

- ・身近で起きた問題を自ら調べて解決する力。
- ・自分なりの工夫を活かして生活しようとする力。
- ・生活の中で自立を目指し、進んで生活の場で活用する力。

○個別最適な学びへ向けた工夫

- ・説明動画へアクセスできる QR コードを生成し、工具等の使い方について情報端末からいつでもアクセスすることができるようにした。

○協働的な学びに向けた工夫

- ・ 振り返りシートを共有することにより、意見を深めやすくした。
- ・ 説明動画をもとに、2人組、3人組での教え合い、学び合いが広く展開される場の設定。



令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

『令和の幸手スタンダード授業5』と『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』を目指した取組事例

幸手市教育委員会

令和の幸手スタンダード授業5

子供たちが未来・社会を切り拓くために、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養が求められています。

このような資質・能力は、毎日の授業の中で意図した実践を繰り返しながら、義務教育の中で育成していくことが必要です。

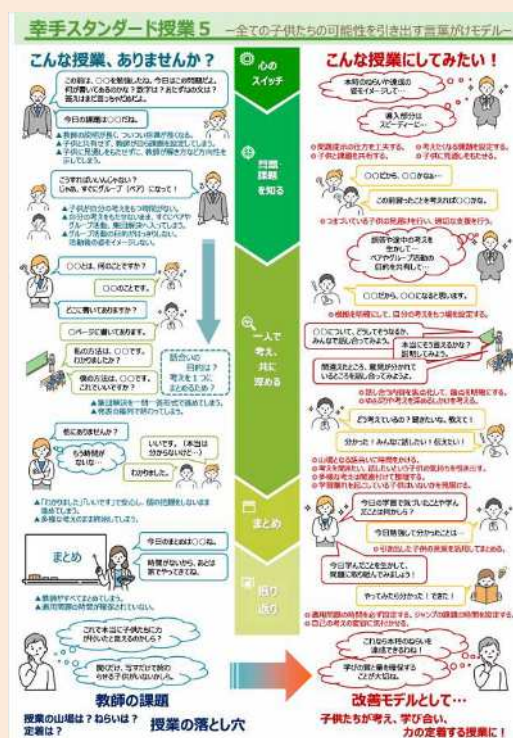
そこで幸手市では、教職員の授業力向上に資するため、以下の資料を作成し、授業等で活用するよう働きかけております。



令和の幸手スタンダード
授業5



令和の幸手スタンダード
授業5 with GIGA



言葉がけモデル

今後も、日々の授業等で、一人一台の学習者用端末の環境も活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、主体的・対話的で深い学びを推進し、「豊かな学びで未来を拓く」教育を目指しています。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

○教科名 社会

○単元名 小学校第6学年「明治の国づくりを進めた人々」

○身に付けたい力

- ・我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現する力
- ・我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする力

○取組の工夫

- ・児童が教科書、資料集、インターネット検索といった多様な情報収集を自ら選択し、課題解決が図れるようにするとともに、得た情報を自身で整理しながらスライドにまとめていく活動を取り入れた。スライドはクラウド共有することで、瞬時に他者と共有できるようにした。
- ・児童がデジタルポートフォリオを継続的に残していくことで、児童自身が学びを振り返り、次の学びに向かえるようにした。



事例2

○教科名 外国語（英語）

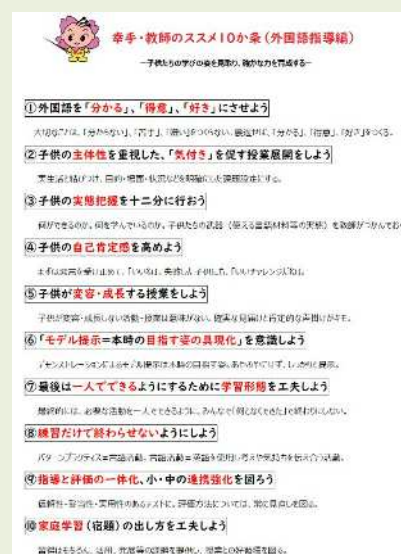
○単元名 中学校第2学年「Program 4 High-Tech Nature」

○身に付けたい力

- ・比較級、最上級、同等比較の文構造を理解し、自分の考えや好きなものについて話す力
- ・伝えたいことについてまとまりのある英文で適切な表現を用いて相手に尋ね、適切に応答する力

○取組の工夫

- ・「幸手・教師のススメ10か条（外国語指導編）」をもとに、子供たちの学びの姿を見取り、確かな力を育成することに重きを置いた授業を展開した。
- ・学級の生徒数が21人という少人数指導の利点を生かし、ALTと協力しながらProgramごとにRetellingに取り組み、全員が全体の前で英語を使って発表できるようにした。
- ・自分の1番好きなものについて、最上級の用法を使い、工夫してペアの相手に伝えるという単元のゴールを設定することで、学習の個性化を図った。



令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための授業改善」

杉戸町教育委員会・杉戸町立高野台小学校

事例1

教科名	国語
単元名	6年 構成を考えて、提案する文章を書こう 「デジタル機器と私たち」
身に付けさせたい力	・情報を取捨選択、整理する活動や提案書を推敲する際に、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目する力 ・原因と結果など、情報と情報を関連づけて構成を考える力

〇工夫

①【学びを自分事とする導入】

単元の導入 〇／9時 学活:デジタル機器について考えよう

〇困ったなと思う場面は

- ・友達になった人の中に怖い人がいた
- ・変なサイトに誘導された。
- ・体調不良につながることがある
- ・けんかになったことがある。
- ・危険がすぐ近くにあると思う。(詐欺・個人情報の流出)

こんなにたくさん出るなら、
きっと他にも悩んでいる人が
いるはず！

よりよいデジタル機器の
使い方を考えて、提案しよう

説得力のある構成を考え、提案する文章を書こう

単元の導入において、学級活動で、デジタル機器について考える時間を設けたことで、自分事として課題を考え学習を始めることができた。

②【児童自ら作成する学習計画】

日	進め方	計画	修正	評価
1	みんな	〇提案書を書くテーマを決め、グループごとに学習計画を立てる。		
2	みんな	〇情報の集め方、提案書の書き方を確認する。		
3		〇情報を出し合う。(事実と体験) 〇必要な情報を集める。		
4		〇解決したり課題も考える。 〇提案したい内容を考える。	必要な情報を集める。	
		〇提案と課題が合っているか		

児童自ら計画を立てて進める時間においては、計画表に「修正」欄を設けたことで、児童は適宜修正しながら学習に取り組んでいた。

③【思考可視化ツールの活用】

2 提案書作り	
初め	1.提案のきっかけ (1)体験情報(事実) (2)課題
中	2. 提案 具体的な提案内容 効果

やること	
初め	1.提案のきっかけ (1)自分の体験 情報(事実) 調べて分かったこと (2)課題
中	2. 提案 具体的な提案内容
	3.まとめ(主張) 提案・呼びかけ

他の児童の学習状況を自由に見ることができるようにしたことで、児童は参考にしたい児童のカードを見ながら学んだり、必要に応じて直接聞きに行ったりしながら学びを進めることができた。

取り組む段階によってワークシートの色を変えることで、学習状況を捉えやすくした。

教師自身のモデルを載せることで、書き方がわからない児童も参考にしながら学習を進めることができた。

事例2

教科名	国語
単元名	4年 理由や例を挙げて、考えを書こう 「もしものときにそなえよう」
身に付けさせたい力	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解する力 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する力

〇工夫

①【相手意識・目的意識の明確化】

テーマ『火山』
 防災BOOKを書く相手
 『おじいちゃん』
 理由
 「おじいちゃんのお家は、火山が起きる山の近くにあるから。」

単元のゴールを、「〇〇さんに向けて防災BOOKをつくらう」としたことで、一人一人が明確に相手意識・目的意識をもって学習を進めることができた。

②【児童自ら作成する学習計画】

防災BOOK作り計画表 名前()

時間	計画	修正
3	【A】テーマについて調べる 【B】調べたことを分類・整理する	
4	【C】防災BOOKに書く内容を確認する 【D】自分の意見を書く	
5	【F】「はじめ」の部分の下書き 【E】自分の意見に対する事例や理由を述べる	
6	【G】「中」の部分の下書き 【H】「終わり」の部分の下書き	
7	【I】下書きを読み直す 【J】清書を書く	
8	【J】清書を書く 【K】清書を読み直す	
9		
10	防災BOOKを読み合う	

どの学習内容に時間をかけるか自分で考えて計画を立てるようになったことで、主体的な学習につながる事ができた。

③【学び方を児童が選ぶ】



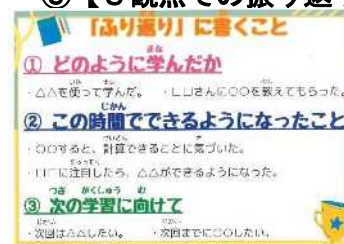
今日の自分のめあてにあった学び方ができるように、自分が今、何の学習をしているのかを毎時間に初めに示し共有したことで、それを参考に学ぶ相手を選ぶ児童の姿も見られた。書く手段も児童自身が選ぶようにしたことで、主体的な学習につながっていた。

④【学習の見取りと適切な言葉かけ】



児童一人一人の学習状況を的確に把握し、適切な助言を行った。児童同士をつなぐ言葉かけやより深い学習へ導く声かけなども行ったことで、協働的な学習も促され、深い学びにもつながっていた。

⑤【3観点での振り返り】



学んだことだけでなく学び方についても振り返り、次時へ向けての課題を把握したり、家庭学習で行って来ることを記述したりすることで、主体的に学習に取り組める児童が増えてきた。

令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

松伏町教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

松伏授業プラン		
学習過程	学習活動（児童・生徒）	指導のポイント（教師）
導入 つかむ	○授業開始にあり合わせ ○本時の学習の課題（めあて）をノート等に記入する ○今日の学習の意図をもつ	○本時のねらいに迫る適切な課題を示し、板書する ○7分以内で、児童生徒の学習意図がわかるようにまとめる課題を提示する
展開 考える	○自分の考えをもつ（自力解決） ○自分の考えを伝えたり、友達との考えを聞いて、自分の考えを深める（協働の学び） ○自分の考えを振り返り、友達との考えを聞いて、自分の考えを深める（協働の学び） ○自分の考えを振り返り、友達との考えを聞いて、自分の考えを深める（協働の学び）	○一人で考える場を設定する ○考える視点を明確に示す ○自分でしっかり考える時間を確保する ○一人一人が考えをもてるように、適切な支援をする（ヒントカードの活用、声かけ等） ○協働の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ・4人以内）を選択する ○協働の学びのねらい、「何のために協働の学びをするのか」（どのように学ぶのか）を児童生徒に明確に示す ○話し方・聞き方を育て、適切な交流を行わせる ○思考を深める問い・話し合いを促す
終末 まとめる振り返る	○本時の学習の課題（めあて）に沿ったまとめをノート等に記入する ○振り返りを文章で記入する ○振り返りを文章で記入する ○振り返りを文章で記入する	○本時のねらいに沿ったまとめを、板書する ○振り返りの時間と内容を、あらかじめまとめる ○振り返りの時間と内容を、あらかじめまとめる ○振り返りの時間と内容を、あらかじめまとめる

「考える」の取組

考える	自分の考えをもつ （自力解決）【個の学び】	一人で考える場を設定する
	○既習の体験や学習をもとに自分の考えをもつ ○考えを整理し、ノートに表出する	○自分でしっかり考える時間を確保する ○考える視点を明確に示す ○個人で考えをもてるように、手立て（ヒントカード等）を準備する

「指導の個別化」と「学習の個性化」

学習形態の工夫（T・T, 少人数）

ワークシート
を使って

タブレット
を使って

学びの選択

ノートやプリントにも、タブレットにも、それぞれよさがあります。何を使って考えるか、どのように解くかなど、考える方法を自分で選択することで意欲も理解度も高まります。

「深める」の取組

深める	自分の考えを伝え、友達との考えを聞いて考えを深める （協働の学び）【集団の学び】	考えを深める場を設定する
	○自分の考えを伝える ○傾聴（聴取）を明確にして話す ○自分の考えと比較しながら友達との考えを聞く ○自分の考えを見直し、修正する	○傾聴の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ・4人以内）を選択する ○話し方・聞き方を育て、適切な交流を行わせる ○思考を深める問い・話し合いを促す

友達と話し合ったり、発表したりすることで、思考を深めることができます。「考える」の時間では自力解決できなかった児童生徒も、友達との話し合いや発表を聞くことで、自分の考えをもつことができます。図や式を用いて自分の考えを発表できるとよりよい学習につながります。ICTを活用すると、思考を整理したり、考えをまとめたりすることができ、便利です。発表後、友達の意見に質問や感想を伝え合う場面を設けると、全体の理解が深まります。

事例1

ロイロ・ノートによる ワークシートの配布

○教科名 数学科（中学校第3学年）

○単元名 「〔相似な図形〕形に着目して図形の性質を調べよう」

○身に付けたい力 具体物から相似な図形を見出し、形を簡略化して課題を解決する。

○取組の工夫 数学科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の工夫



単元の導入時に「単元を貫く学習課題」を設定し、その課題に向けて相似な図形に関する知識等を育んだ。学習時は1人やペア、グループといったように学習形態を1つに絞ることなく、生徒一人ひとりが学びの選択ができるように進めた。課題に関わるYoutube（動画）を活用することで、興味・関心を高め、取り組みやすい環境を作った。課題の解決場面では、これまでの既習事項をもとに、まずは個人での思考する時間を設定した。その上で、その後必要に応じてペアやグループで話し合う「協働的な学び」の時間を取り入れた。解決方法はロイロ・ノートを活用し、配布・共有を行うことで、個人や全体の思考が深まる効果的な支援を行うことができた。

事例2

○教科名 算数（小学校第3学年）

○単元名 「小数 数の表し方やしくみを調べよう」

○身に付けたい力 小数のしくみや数の構成に着目し、小数について多様な見方や表し方を考え、表現する。

○取組の工夫 算数科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の工夫

「考える・深める」の場面においてデジタル教科書と学習支援アプリ、電子黒板を活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図った。自力解決の場面では学習支援アプリを活用しながら、児童一人ひとりが解き方（数直線、0.1が○こ分、○と○を合わせた数、○から○ひいた数）を選択できるようにした。まとめを練り上げる場面においては、直接記入できる電子黒板を活用し、数直線上の数値の見方・考え方を確認したり、学習支援アプリで作成した児童の解法を表示したりしてより思考が深まる協働的な学びにつながるように工夫をした。



事例3

○教科名 体育科（小学校第4学年）

○単元名 「跳び箱運動」

○身に付けたい力 自身の演技を確認し、自己の課題を解決する。

○取組の工夫 体育科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の工夫

それぞれの課題にあった場を選択し、練習が行えるように様々な場を用意した。それぞれの場には、タブレット端末を設置し、「ウゴトル（動画撮影アプリ）」を活用することで、自身の演技を確認することができるようにした。演技と確認を繰り返し行うことで課題が明確になり、演技の上達に繋がった。また、同じ課題をもつ児童同士や、技能の高い友達から動画を見合いながらアドバイスをもらうことで、協働的な学びへ繋がった。授業の最後には、学習支援アプリ「ロイロ・ノート」で、演技の動画を用いたふりかえりカードを記入した。毎時間の成果を確認することができるだけでなく、次時への意欲づけや課題設定に繋がった。ふりかえりカードは「提出箱」に保存することで、児童同士で見合うことができ、学び合いに繋げることもできた。



令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るための授業改善」

吉川市教育委員会・事例1：関小学校・事例2：美南小学校・事例3：吉川中学校

事例1

児童一人一人の「自己決定」を重視した社会科の取組 主体的に学習に取り組む児童の育成を目指して

○教科 社会

○単元 「店ではたらく人」

○本時の目標 地域に見られる販売の仕事について予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追及し、解決しようとしている。

＜学びに向かう力、人間性等＞

○取組の工夫 自己決定理論を基に、児童が主体的に授業に参加できる方法を取り入れている。課題設定やまとめ方を児童の言葉から引き出して設定することや、課題解決の際に解決方法を児童が一人一人が選択・決定を繰り返す実践を行っている。これにより、学習意欲を引き出すことや自律的に学ぼうとする児童生徒の育成、探究的な学びを推進している。

自己決定理論

自律性の欲求：自分の行動に関して、意思を感じ責任をもちたいという欲求

有能感の欲求：自分の能力や才能を発揮・表現するための機会や支援を欲すること

関係性の欲求：他者とのつながりや関わりをもちたいと感ずること

個

周囲との関わり方を自己決定していく（往還）

集団

教科書・ノートで
自力解決



わくわく班
グループ学習



うきうき班
先生

わくわく班
ペア

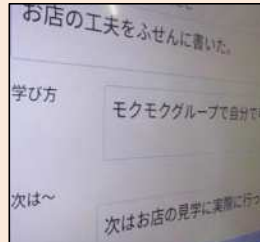
もくもく班
個人



解決方法の選択・決定
ゴールまでの道筋の明確化



インターネットで解決



ヒントカードで解決
(ICT&紙面)



思考をまとめる図の選択

自力解決をするための手段（ツール）を自己決定していく

ゴールまでの道筋において、児童が選択・決定を繰り返していく授業展開
個別最適な学び＋協働的な学び＋自己決定＝主体的・対話的で深い学びの実現

事例2

探究学習と自由進度学習を取り入れた算数科の取組

○教科 算数

○単元 「円の面積の求め方を考えよう」

○本時の目標 円の面積を求める公式について理解できる。〈知識及び技能〉

円の面積を求める公式を半径×半径に着目して読み取り、円周率について考え説明することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉

○取組の工夫 単元を進める中で、第1時～第3時を1つのまとまりとして捉え、「課題をつくる・調べる・共有する・新たな課題をつくる」を探究学習と自由進度学習の要素を取り入れながら行った。これにより、ペアやグループ学習が活発になり、自信をもって自分の意見を発表できる児童生徒の育成につながった。

課題の設定・課題の発見

情報の収集

情報の整理・分析

まとめ・提案方法・表現

共通課題
の設定

個人課題
の設定

探究学習＋自由進度学習

エキスパート学習

シグノー学習

児童の願いを実現

①話し合いに積極的に加
わりたい
②発表を聞いてほしい

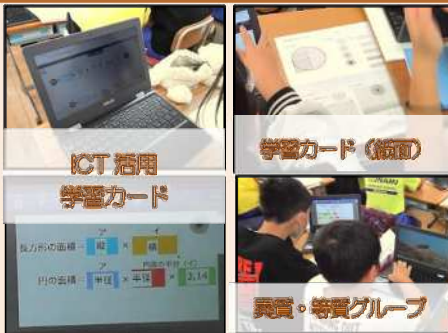
ゴールの明確化＋個人で達成する内容の具体化



見通しの
明確化

前時までの
振り返り

一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供



ICT活用
学習カード

学習カード（紙面）

異質・等質グループ

必要に応じた重点的な指導方法の工夫



グループでの発表

①学びの主体は、児童
②多様な選択肢の提供
③自己決定場面の確保

事例3

探究学習の要素を取り入れた社会科の取組 ～考える社会の授業実践～

○教科 社会（公民的分野）

○単元 「第3章現代の民主政治と社会 第2節国の政治の仕組み 4行政の仕組みと内閣」

○本時の目標 内閣の主な仕事について、本文や資料の読み取りを通して理解できる。

〈知識及び技能〉

○取組の工夫 生徒が自ら学びたいと感じる社会科の授業を行うために「考える社会」を基本とした授業実践を行っている。教師が用意した、学習プリントを基に、資料集やGoogleアプリ（Googleサイト）、教科書等を活用し、周囲と話し合いながら知識の定着と共に思考を促している。個の考えを集団に広めることで、多様な視点から学びを深められるようにしている。

必要な資料の選択

デジタル
ポートフォリオ

グーグル
サイトの活用

実態に即した
学習プリント

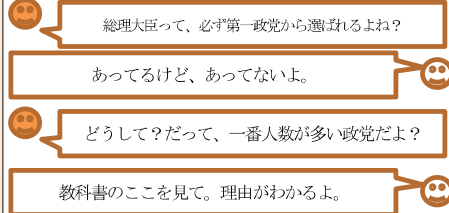
教科書
資料集



各々の特性・学習進度学習到達度
に応じた資料の提供



異なる考えが組み合わさり、よりよい学びを生み出す



総理大臣って、必ず第一政党から選ばれるよね？

あってるけど、あってないよ。

どうして？だって、一番人数が多い政党だよ？

教科書のここを見て。理由がわかるよ。

令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を 目指した取組事例 について

三郷市教育委員会

指導力の向上・授業改善

～複線型授業の実現・ICTの効果的な活用～

これまで以上に「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため、ICTを効果的に活用した「複線型授業」の実現を目指しています。

三郷市優秀教員表彰・受賞者による授業研究会

今年度は、小学校・道徳、中学校・保健体育の授業を公開。個別最適な学び、協働的な学びを通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する、優秀教員の優れた指導方法から多くの学びを得ました。

事例1

○教科名：小学校「道徳」

○单元名：第6学年「ロレンゾの友達」

○身に付けたい力：

- ・3人の判断を手がかりに、友としてどうあるべきかを考える学習を通して、信頼関係をもとに、相手の身になって考え行動することの大切さに気づき、友情を深めようとする態度を育てる。

内容項目〔B 友情、信頼〕

○ねらいに迫る発問構成【主発問を4つに構成】

分析的

批判的

分析的

投影的



事前に教科書を読み、
3人の登場人物の気持ち
ちを分析



登場人物の判断の結
果、友達関係はどう
なるのか



ロレンゾに対する3
人の登場人物の気持ち
ちを分析



自分だったらどうするか
と「自分事」として考
える

事例2

○教科名：中学校「保健体育」

○单元名：第2学年「長距離走」

○身に付けたい力：

- (1) 技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守り一定の距離を走ることができるようにする。〈知識及び技能〉
- (2) 自己の課題を分析し、運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉



- (3) 健康・安全に気を配り、陸上競技に積極的に取り組むことができるようにすること、勝敗などを認め、ルールやマナーを守り、分担した役割を果たすことができるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

①ICTの効果的な活用

一人一台のタブレットPCを活用し、自らの長距離走の記録を瞬時にグラフ化する。
目標値と現在の記録を比較することで、課題をより明確にすることができた。

②効果的な声かけ

ICTにより目標との差が瞬時に明確になることで、「長距離走」でのペアでの声かけをより具体的に、活発に声かけを行うことができた。



教員研修組織 **GIGA3・プロジェクト「すすめる研究部」** による研究推進

ICT教育推進者が力を合わせて研究を進め、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図った「複線型授業」の実現を目指しています。また、授業研究に加え、デジタル教材共有バンク（オクリンクプラス）の作成を進めています。

事例3

○教科名：中学校「国語」（第3学年）

○单元名：「人工知能に関する二人の巨匠の対談を成功させよう」

○身に付けたい力：

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深める。〈知識及び技能〉(2)ア
- ・論説文の特性を踏まえて、論理の展開を捉える。〈思考力・判断力・表現力等〉(1)ア

○取組の工夫：授業の複線化



全員で課題を確認した後、教科書・書籍・インターネットを駆使し、各自がタブレット上のワークシート（オクリンクプラス）に筆者の主張をまとめました。分からないところや疑問に思ったところは、級友と話し合ったり、教師とともに解決の糸口を探ったりするなど、生徒一人一人が必要な学び方を考え、選択し、一生懸命学習に取り組む姿が見られました。



事例4

○取組場面：ICT教育推進者が、「個別最適な学び・協働的な学び」の一体的な充実を目指して、授業実践で活用したデジタル教材（オクリンクプラス）を共有する。

○対象：市内全教員

○取組の工夫：デジタル教材共有バンク（共有コードの一覧化）



三郷市デジタル教材共有バンク ～オクリンクプラス～						
No.	教科	学年	単元名・題材名	共有コード	QRコード	作成者
例	国語	2年	スイミー	pb01J5YV39NTYGEJP6RTSEV4AF6E		三郷小・三郷大郎

※令和7年度から本格運用開始